

世界一と中515号の一代交雑種繭生産技術

福島県農業試験場梁川支場
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 蚕糸－育蚕－品種
分類コード 09-02-01000000
- 2 担当者 名倉明夫・土井則夫
- 3 要 旨

世界一aと中515号bの一代交雑種の生糸は、柔らかく、また瞬間的なひずみに対する回復力が高く、しわになりにくく、耐久性にも優れるので、高級絹製品の素材として好適と考えられる。そこで、世界一と中515号の一代交雑種の繭生産について検討したところ、次の結果を得た。

(1) 1～3齢期人工飼料育における使用する飼料、給餌量、蚕座面積および経過日数は一般交雑種と同様であった。給餌回数は3齢期中2回としても3回のもものと遜色なかった。

(2) 4～5齢期桑葉育における経過日数は5齢期が5日強と短く、給桑量は一般交雑種と比べ20%程度削減できるものと考えられた。

(3) 蚕期適応性については、中515号×世界一(中母体蚕)は蚕期に依存することなく良好な成績であるが、世界一×中515号(日母体蚕)は夏秋蚕期、特に晩秋蚕期に化蛹歩合が低く、収繭量が少なかった。

(4) なお、上繭1kg当たりの生産費は、各蚕期に中母体蚕と日母体蚕を均等に飼育すると4,200円強であったが、春蚕期に日母体蚕、晩秋蚕期に中母体蚕、初秋蚕期に日母・中母体蚕の両方を使用することで約240円低減できるものと考えられた。

a 世界一; 18世紀末に梁川町(現伊達市)の中村佐平治が育成した蚕品種

b 中515号; 極細織度蚕品種はくぎんの原種

4 その他の資料など

- (1) 東北蚕糸・昆虫利用研究報告第28号
- (2) 日本シルク学会誌第14巻